

大阪市立鯉江東小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|      |                     |                        |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した       | B：目標どおりに達成した           |
|      | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標  | 達成状況 |
|---|------|
| <b>【視点 学力の向上】</b><br>① 本年度の学習理解度到達診断において、2 極化傾向の改善を図る。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div> ② 理由づけをして意見を述べたり書いたりできる児童の割合を 50%以上にする。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div> ③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、国語・算数の授業の内容が「わかる」と回答する児童を昨年度より増加させる。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div> ④ 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「学力を定着させるような授業が行われている」と回答する保護者の割合を昨年度より向上させる。 (マネジメント改革関連)<br>⑤ 本年度末の読書アンケート調査で、次の各項目について、肯定的な回答の割合を平成 26 年度より増加させる。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読むのが好き。</li> <li>・本をよく読む。</li> </ul> <div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div> | A    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <b>取組内容①【 習熟度別少人数授業の充実 】</b><br>習熟度別少人数授業などの学習形態を工夫して、基礎・基本の定着を図る。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div>  | A    |
| <b>指標</b> ○習熟度別少人数授業を年間計画にそって実施する。<br>○「習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実にかかる事業」状況調査（後期分）<br>・単元テストの正答率の分布の 2 極化傾向を前年度より減少させる。<br>・意識調査で国語・算数の授業が「分かる」と答える児童を前期より増やす。                                   |      |
| <b>取組内容②【 言語力や論理的思考力の育成 】</b><br>各教科を通して、読書量を増やすとともに、言語活動の充実を図る。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div>  | B    |
| <b>指標</b> ○読書記録を活用し、目標とする年間読書量を超える児童を半数以上にする。<br>・低学年：80冊 高学年：30冊<br>○読書アンケートで「本を読むのが好き」と回答する児童の割合を、前期より増やす。<br>○ワークシートやノートに次のような記述内容が書ける児童を半数以上にする。<br>・学習のめあてをとらえた意見を書いている。・理由づけをして書いている。 |      |
| <b>取組内容③【特別支援教育の充実】</b><br>学級担任と特別支援学級担任が連携して「個別の支援計画」を策定するとともに、指導を通して「個別の指導計画」を児童一人一人の実態に合うように更新する。<br><div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</div>                                  | A    |
| <b>指標</b> 「個別の指導計画」を年 3 回見直す。   |      |

|   |   |
|---|---|
| <b>取組内容④【 授業研究を伴う校内研修の充実 】</b><br>全学年で授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。<br>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)                    | A |
| <b>指標</b> 年間19回以上実施する。  |   |
| <b>取組内容⑤【 校内研修の充実 】</b><br>ICT機器を取り入れた授業づくりに取り組むとともに、読書活動を充実させるための研修会を行うようにする。<br>(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連) | B |
| <b>指標</b> ○ICT機器を活用した授業を各学年1回以上行う。<br>○読書活動に関する研修会を1回以上行う。  |   |

| 年度目標の進捗状況や経過達成状況の結果と分析   |
|--|
| <p><b>取組内容①【 習熟度別少人数授業の充実 】</b></p> <p>国語科や算数科の授業において、習熟度別少人数授業を年間計画に沿って実施することができた。単元テストの正答率の分布では2極化傾向は改善され、平均正答率も年度当初より伸びている。それにより、アンケートで授業が「分かる」「だいたい分かる」と答える児童は、国語は前期と同じ92%、算数は前期は93%で、後期は91.6%だった。国語、算数ともに90%以上の児童が「分かる」「だいたい分かる」と答えている。ただし、「あまりわからない」「わからない」と回答する児童の割合は年度当初と変わっていない。意識の面で、学力の伸びが実感するに至っていないと思われる。</p> <p><b>取組内容②【 言語力や論理的思考力の育成 】</b></p> <p>読書量については、高学年は30冊以上の児童が半数を超えて、目標を達成した。低学年については、目標値の80冊を超える学年もあるが、学年差・学級差が認められる。指標を70冊以上にすると、1、2年生は半数を超える。3年生になると長編を読む児童も増え、1冊読むのに時間がかかるようになる。40冊以上で約60%になる。指標の検討が必要である。</p> <p>本の読み聞かせをしたり、読書記録をつけたり、教材文に関連する本の並行読書を行う活動を学校全体で行ったりするなどの、読書量を増やす工夫をした結果、アンケートでは、「本を読むのが好き」と回答する児童は、前期は77%で、後期は82%となり増加している。</p> <p>ワークシートやノートに学習のめあてをとらえて意見等を書くことができる児童は半数を超えている。理由づけをして書くことに関しては、教材や単元によって差があり、約40%の達成状況と捉えている。</p> <p><b>取組内容③【 特別支援教育の充実 】</b></p> <p>学級担任と特別支援学級担任が話し合いの場をもち、「個別の支援計画」を策定し、それに基づいて「個別の指導計画」を作成し、学期ごとに見直しをすることができた。授業の進度や日頃の様子をこまめに話し、情報共有を図ることで、児童の成長や課題を見つめ直すよい機会となっている。</p> |

#### 取組内容④【 授業研究を伴う校内研修の充実 】

全学年による研究授業や全員授業も実施したので、年間 29 回の授業研究を伴う校内研修を実施したので、年間 19 回以上の研究授業を行うという目標は達成できた。研究授業の後は、講師先生を招いての討議会を開くことにより、教員全体の研修がさらに深まり、指導力・授業力の向上につながっている。

#### 取組内容⑤【 校内研修の充実 】

I C T機器を活用した授業を各学年 1 回以上行うことができている。デジタル教科書を使った国語の授業では、挿絵の活用や本文への書き込み、範読や比べ読みなどでも活用することができている。

読書活動を充実させるための研修会については、実施できている。また、読書アンケートでは、「本を読んでもらうことは好き」については、68.1%から69.5%に、「国語の授業がきっかけでほかの本を読んでもみようと思ったことがある」については、58%から68.7%に増えている。

#### 来年度への改善点

- ① 習熟度別少人数指導において、一人一人の課題を把握したり、「分かる」と答えられなかった児童の引き継ぎなどを行ったりして、より細やかな支援を継続的に行う。また、教材に応じた指導形態や評価の仕方を工夫する。
- ② すすんで理由づけができる児童の割合を増やしていくような手立てを講じるようにする。不読児が少しずつでも本を読めるような取り組みを、これからも工夫して取り組んでいく。なお、読書量については、本年度の実績をもとに、指標を再検討する。
- ③ 次年度も、学級担任と特別支援学級担任との話し合いの場を設定し、情報を共有できるようにする。また、年度途中で在籍した児童分も保護者の同意も得た確実なものにする。
- ④ 次年度も計画的に行っていき、全員授業の参観者も増えるようにしていく。
- ⑤ I C T機器の活用については、今後も研修を行ったり、活用する機会を増やしたり、授業も行ったりしていくようにする。